

Information

令和7年1月より時給を1200円に！只今、パート職員、募集中！

山脈はパート職員の時給を令和7年1月より1200円に改正しました。
詳しい仕事内容、給与、待遇等については法人事務局までお問合せください。

1. みやま工房（就労継続支援B型） ①法人事務職員 ②就労支援スタッフ

【仕事】①経理、労務、庶務など法人事務業務全般
②利用者の就労支援（作業指導、相談支援、支援記録など）

【勤務】①、②ともに、9時～16時（昼休憩1時間あり）

【休日】土曜日・日曜日・祝日（第2・第4土曜日は出勤の場合あり）

2. キッチンハウスみやま（就労継続支援B型） 就労支援スタッフ

【仕事】お弁当作り（調理、配膳など）

【勤務】8時～15時、6時間程度の勤務

【休日】土曜日・日曜日・祝日

3. 麦のゆめ（就労継続支援B型） 就労支援スタッフ

【仕事】パンやお菓子作り、パンの販売、内職などの軽作業、旅館のお掃除

【勤務】8時～17時 6時間程度の勤務（休憩1時間あり）

【休日】水曜日、日曜日

4. ハーモニーやまなみ（グループホーム） 世話人

【仕事】ホームでの利用者支援（食事提供、衛生管理、健康管理、金銭管理、相談支援、記録等）

【勤務】1日7時間（7時～10時、15時～17時）※中抜け勤務、月15日程度の勤務

※どの職種も勤務成績等により正規職員への登用のチャンスあり

令和7年度賛助会員受付中！

「山脈」の設立趣旨に賛同し、私達の活動を応援してくれる方を募集します。一口 2,000 円で何口でもかまいません。皆様の温かいご理解とご支援を宜しくお願い致します。

賛助会員 年会費 2,000 円(一口)

山脈ニュースをお届けします

賛助会員になられた方には、毎月、当法人の活動の内容をお伝えする「山脈ニュース」をお届けします。

発行

特定非営利活動法人 山脈 理事長 笹澤 賢一

住所：〒370-3604 群馬県北群馬郡吉岡町大字南下 983-2

電話：0279-54-2947 FAX：0279-54-9171

E-mail：rep@npo-yamanami.jp

URL：<http://www.npo-yamanami.jp/>

運営 就労継続支援B型事業所「みやま工房」

就労継続支援B型事業所「麦のゆめ」

就労継続支援B型事業所「キッチンハウスみやま」

グループホーム「ハーモニーやまなみ」1号・2号・3号・5号・6号

(文責：笹澤賢一)

NPO

法人

山脈ニュース

2025.4

No.261

きょうされん第48次国会請願署名・募金運動がいよいよ大詰めを迎えます

昨年の12月から始まった「きょうされん第48次国会請願署名・募金運動」がいよいよ大詰めを迎えます。

署名、募金共に4月末まで受け付けています。まだ、間に合いますので、ひとりでも多くの方にご協力をお願いしたいと思います。署名と募金は、きょうされん群馬支部の会員事業所で受け付けています。

【高崎・安中地区】リベルタ高崎、リベルタ安中、障害者サポートセンタープラム、昭和町福祉作業所

【前橋地区】ゆーハウス前橋 【伊勢崎地区】くわのみ【渋川地区】サポートハウスなずな、みやま工房

また、きょうされん第48次国会請願署名・募金運動については、きょうされんのホームページにも詳しい説明が掲載されていますので、そちらもご覧ください。

高崎駅東口でがんばるデー（街頭署名）を実施しました。

2月21日（金）、10時30分から11時30分までの1時間、高崎駅東口にてがんばるデー（街頭署名）を実施しました。群馬支部としては昨年に引き続き2回目のがんばるデー（街頭署名）になります。前回の反省などを踏まえ、立つ場所や声の掛け方、利用者さん達の役割など工夫を加えてチャレンジしました。

結果は、33筆の署名と7520円の募金を頂くことができました。ご協力を頂きました方々には本当に感謝いたします。因みに、今回は、署名が22筆、募金が2270円だったので、事前に色々と工夫を検討した成果です。

【参加した利用者さんと職員の声】

- ・たくさんの人が署名や募金をして下さったのでここから感謝しています。（みやま工房 利用者）
- ・風がなくて良かったです。また、私はきょうされんに行きたいです。いい勉強になりました。

（みやま工房 利用者）

- ・初めての参加でしたが、たくさんの署名と募金をしてくれた人もいて良い経験ができました。

（みやま工房 職員）

- ・初めて署名活動に参加しました。短い間でしたが充実した時間が過ごせました。また参加したいです。

（麦のゆめ 利用者）

- ・皆、積極的に声を出しとても良い印象でした。多くの方に署名や募金をして頂き、少しですが、皆様の力になれたような気がします。他の事業所の方とも交流でき、とてもいい機会でした。（麦のゆめ 職員）
- ・大きい声で「署名と募金お願いします」と言えた。（キッチンハウスみやま 利用者）
- ・募金や署名してもらえて楽しかった。（キッチンハウスみやま 利用者）
- ・署名や募金してくれた方へのお礼をきちんと伝えられた。（キッチンハウスみやま 利用者・職員）
- ・普段できない貴重な経験ができた。きょうされんの署名についてしっかり理解してから活動する必要性を感じた。
- ・声のかけかたにも工夫が必要で、みんなで合わせて伝えたりしていた。（キッチンハウスみやま 職員）



令和7年2月10日、山脈は創立より満20年を迎えました！

山脈は、「障害があっても周りの支えがあれば、当たり前前に働き、暮らせる社会のために尽力したい」との想いから、平成16年2月10日に創立し、今年、満20年を迎えました。

創立当時、旧法（精神保健福祉法）の時代であり、精神障害者小規模通所授産施設「みやま工房」（利用定員19名、職員4名）を平成16年4月に開所し、精神障害の方の働く場所作りの支援を始めました。そして、平成17年10月には、グループホーム「ハーモニーやまなみ」を開所し、住居支援にも支援を広げました。

その後、平成18年4月1日には「障害者自立支援法（後に障害者総合支援法）」が施行され、新しい障害福祉サービスへの移行を図り、事業を拡大してきました。一時は、日中系では就労継続支援B型・A型、就労移行支援、生活訓練、そして、グループホームを6棟、運営し、利用者は100人を越え、職員も70人を越える大所帯となりました。

この20年の間にも障害者福祉を取巻く環境も大きく変化してきました。国連の障害者権利条約に日本もようやく批准し、「障害者差別解消法」、「障害者優生調達法」などが制定され、更には昨年、日本の障害者差別や偏見など「優生思想」を生み出した元凶と言える「優性保護法問題」を巡る裁判において、原告勝訴の判決が出され、国が完全な誤りを認め、25000人にも及ぶ被害者の方への補償が始まるなどの明るい兆しも見えてきました。

しかし、一方でこの間、国は障害福祉サービスの評価に市場経済原理や成果主義を導入し、障害福祉予算の抑制を推し進めています。3年に一度の報酬改定では、基本報酬を抑制され、成果・実績などを取得条件とする加算偏重が続き、多く事業所が先の見通しにくい運営を強いられています。そのため、職員の処遇改善も進まず、相変わらず離職率が高く職員不足が深刻になっています。また、一部、福祉理念に乏しく儲け本位の企業が障害福祉サービスに参入し、粗悪なサービスや虐待等が社会問題にもなってきました。

今、障害福祉サービス事業所の運営は困難を極めています。山脈も数年前より「身の丈に合った事業運営」をスローガンに掲げ、より堅実な運営を目指し拡大し続けてきた事業についても、利用者の意向等を汲みながら一部の事業所の閉鎖やサービスの休止などを行い、規模を縮小させることで厳しい状況を乗り越えてきました。

そして、21年目の活動に入った山脈は、次世代へのバントントッチの時を迎えています。笹澤繁男前理事長、そして、共に法人創立に尽力し、この20年間、山脈をここまで育ててきた役職員の方々の障害者福祉に対する熱意や想いを、これから山脈を担う職員達に伝え、障害者福祉における地域のニーズに応える福祉サービス事業を永きに亘り継続して行くことが山脈のこれからの使命となります。

創立から20年間、山脈が障害を持つ方々の支援を続けてくることができたのも当事者の方々、その家族、また、行政、医療、福祉、そして、多くの地域の方々のご理解とご支援の賜物と改めて感謝申し上げます。

5月24日（土）、山脈を支えて頂いた多くの方々への感謝の意を表したく創立20周年を記念する式典と記念事業を実施します。是非、多くの方のお越しをお待ちしております。

特定非営利活動法人山脈 創立20周年記念式典・記念事業

日 時	令和7年5月24日（土）
場 所	吉岡町文化センター
催 事	（1）特定非営利活動法人山脈 創立20周年記念式典 時間 10：30～12：00 受付10：00～ 会場 吉岡町文化センター2F 研修室 （2）特定非営利活動法人山脈 創立20周年記念事業 音楽朗読劇&コンサート「いつかの涙を光にかえて～統合失調症の兄とトイピアノ」 時間 13：30～15：30 開場13：00 開場 吉岡町文化センター 大ホール

音楽朗読劇&コンサート

「いつかの涙を光にかえて～統合失調症の兄とトイピアノ」

山脈は創立20周年記念事業として、5月24日（土）、吉岡町文化センター大ホールにて、統合失調症の兄と音楽を通じて交流を取り戻した体験を綴った著書「いつかの涙を光にかえて（合同会社ホシツムグ刊）」の著者であり、ピアノ演奏家として様々な演奏活動をされている畑奉枝さんによる音楽朗読劇&コンサート「いつかの涙を光にかえて」を公演します。

この公演は障害者差別や偏見のない社会の創生と人権啓発を目的とし、赤い羽根共同募金の受配し実現しました。また、開催にあたり吉岡町と社会福祉法人吉岡町社会福祉協議会のご協力を頂きました。

音楽朗読劇では、著書「いつかの涙を光にかえて」を、青田いづみさんと椎名友樹さんの朗読と畑奉枝さんのピアノ演奏により再現します。また、コンサートでは著書「いつかの涙を光にかえて」にも登場するおもちゃのピアノ「トイピアノ」を使い、不思議な音世界を聴かせて頂けます。

入場は無料となっていますので、是非、多くの方に足を運んで頂きこの公演をご覧頂きたいと思います。



【かわら版No.12】

人間の物語を考えるようになった障害者

人間はそれぞれでいいのです。人間の物語は、無限にある。
男と女は、当然違う。一般人と障害者は、当然違う。見ればわかる。
ハンデを差別というのは、違うと思う。不当な非人道的な扱いを、差別と言う。
恋人や、子供や、結婚できないのを、自分の責任とか、自分が悪いというのも違うと思う。
国や社会が悪いわけでもない。障害者物語だ。つまり、人間の物語。
障害者が、「差別だ！」と言って、自己主張することが、まさに差別を生む。
人間を考え、人間主義になれば、いい。ゆくゆくは、人間の物語になるのです。
そうすれば、この世の中に残るし、許されることです。人間は変化と進歩をすればいい。
同じが混乱を生むのです。
他人と自分の違いを認め受け入れなさい。自分だけにこだわることはやめましょう。

マイノリティーワーキングチーム 星の会